

【No. 12】 プレートテクトニクス理論の成立史に関する記述⑦～⑫の下線部の正誤の組合せとして最も妥当なのはどれか。

- ⑦ 1910年代にドイツの気象学者ウェゲナーは、大西洋を挟むアフリカ大陸と南アメリカ大陸の海岸線の類似から大陸移動説を提案した。しかし、大陸どうしがつながっていた古生物学的・岩石学的な証拠を提示できなかったため受け入れられなかった。
- ⑧ 1950年代に岩石残留磁化方位の測定から、各大陸の極移動曲線が異なることが明らかとなった。極移動曲線の違いは大陸が移動したと考えるとうまく説明できるため、大陸移動説が再び注目されるようになった。
- ⑨ 1960年代初め、海底地形、熱流量などの研究成果から海洋底拡大説が唱えられた。海底岩石の地磁気縞模様が海嶺を挟んで対称の縞模様を示すことが発見され、海洋底拡大説が広く受け入れられるようになった。
- ⑩ 1960年代後半、トランスフォーム断層の走向、地磁気縞模様などから推定される海洋底拡大速度などのデータを用いて、変形する粘性体として移動するプレートという概念が導入され、プレートの運動が判明した。

- | | ⑦ | ⑧ | ⑨ | ⑩ |
|------|---|---|---|---|
| 1. 正 | 正 | 正 | 正 | 誤 |
| 2. 正 | 誤 | 正 | 正 | 正 |
| 3. 正 | 誤 | 誤 | 正 | 正 |
| 4. 誤 | 正 | 正 | 誤 | 誤 |
| 5. 誤 | 正 | 誤 | 誤 | 誤 |